

平成 25 年度 社会福祉法人長生園事業報告

安倍政権は、アベノミクスの名の下に金融政策や財政政策、民間投資を喚起する政策を打ち出し、消費等の内需を中心とし部分的に景気回復の動きが見られている。しかしながら生活実態として景気回復を実感するには至っていない。デフレ脱却・経済再生・財政健全化の両立の実現をめざし、実質的な景気回復を推進する持続的な政策が望まれている。

一方、社会保障施策では、社会保障財源の安定的確保の名目で国民に広く負担を求める消費税の増税が4月から実施されることとなった。高齢者福祉分野においては、団塊の世代が75歳を迎える2025年対策として「地域包括ケアシステム」の構築が急務とされ、各市町村が策定する次期介護保険事業計画での対応を必須とした。この目的は、高齢者が尊厳・個別性の尊重を基本とし、出来る限り住み慣れた地域で在宅を基本とした生活継続を支援することを方針としている。そして介護・医療・保健・福祉や住まい・生活支援等の連携と、サービス全体の質と量の拡充を目指している。今後においては高齢者の置かれている現状や実態を踏まえ今後の問題点を十分に把握し政策が推進されていくことが必要である。

長生園では京都府や関係市町との連携・協力を一層密にし、地域の課題を積極的につかみ、平成24年度のグループホーム増築をスタートとし新たな施設整備に全力で取り組んできた。平成25年度には「長生園第2 デイサービスセンター」が竣工し、独居等生活困難高齢者の費用負担の少ない住まいの提供を行う「あんしんサポートハウス光華苑」も着工をみた。また、市町村との連携のもとで既存施設についても困難なケースにも対応した取り組みを強め、社会的使命を果たすよう努力を重ねてきた。さらに、18号台風で再び床上浸水となった長生園では防災対策の一層の強化を図り、ご利用者に安心して生活いただけるよう計画的に環境整備を推進してきた。

財政運営では、新たな施設建設のために独立行政法人福祉医療機構融資などによる資金調達を行い、事業の円滑な推進を図るとともに、介護事業面ではご利用者のニーズにきめ細かく対応したサービスの向上を目指し、更なる処遇の向上に努めた。

本園の施設利用者の動向においては、平成25年度にご逝去されたご利用者様は、男性12名、女性35名、計47名であった。

次に主だった事業実績を掲げる。

○ 施設・設備関係

- 第2 デイサービスセンター竣工
- あんしんサポートハウス着工
- WindowsXP 及び医療・介護・栄養管理関連ソフトを Windows 7 に変更
- 大型加湿器の試験導入(4 台)
- 冷温配膳車・厨房炊飯器更新、厨房設備改修
- 18号台風を教訓にした防災対策工事（西側駐車場雨水侵入防護壁設置）
- 鳥害対策ネットの追加整備
- 台風18号被災器具の買い替え
- 常夜灯のLED 照明化及びデマンドコントローラー設置による省エネ対策

○ 運営関係

- 18床の養護老人ホームの特別養護老人ホームへの転換協議(継続中)
- 養護老人ホーム夜間入浴サービスの継続実施
- 訪問歯科診療と口腔ケアの推進
- 第2 デイサービスセンターの開業準備
- 宿直パート職員体制の強化(3人体制)
- 研修・実習等受入
(南丹看護専門学校実習、府立医大研修医実習、南丹病院研修医実習、聖カタリナ高校実習、市民児協福祉体験教室、園部中学校職場体験、園部小学校福祉体験、大学福祉コース実習、民間ヘルパー研修等)
- 職員資質向上研修実施(普通救命講習、ベッド移乗、看取り介護、メンタルヘルス、認知症介護、痰吸引、感染症、緩和ケア、摂食嚥下障害ほか)
- グループホーム・ケアハウスの第三者評価の実施

○ その他

- 職員の表彰等(叙勲 - 名、知事表彰 - 名、全社協表彰 1 名、府社協表彰 3 名)
 - 資格取得支援(介護支援専門員実技・模擬試験、介護福祉士実技試験対策講座・模擬試験、社会福祉主事講習派遣)
 - 職員の退職・採用
 - 退職者(学生除く): 職員 3 名・準職員 0 名・パート(介護職員 7 名、看護職員 1 名)
 - 採用者(学生除く): 職員 8 名(登用)・準職員 11 名(登用)・パート介護職員 15 名、パート看護職員 3 名
- [障害者雇用: 1 名(平成 25 年 3 月末現在計 4 名)]

以下に各運営施設並びに事業所ごとに詳細に事業実施の報告をする。

1. 法人の運営

理事会、監事会、評議員会の開催と議案

(1) 監査

平成 25 年 5 月 13 日(月) 午前 10 時 00 分より 於: 長生園会議室
監査監事 3 名(川西通夫・横山義雄・大谷俊定) 出席

- ・平成 24 年度の事業運営、管理状況及び本部会計、各施設会計等会計全般の出納経理事務、決算について監査を受けた。
- ・理事会への理事の出席、議案審議状況、利用者の預かり金保管状況についていずれも適正執行であることについて確認を受ける。

(2) 第 202 回理事会(監事を含む役員会)

平成 25 年 5 月 18 日(土) 午前 11 時 00 分より 於長生園会議室
議事事項

評議員の委嘱について	承認
平成24年度社会福祉法人長生園事業報告について	承認
平成24年度社会福祉法人長生園全会計収支決算及び財産目録について	承認
平成24年度社会福祉法人長生園事業及び全会計収支 決算監査結果報告について	承認

(3) 第42回評議員会

平成25年5月18日(土)午前9時30分より 於長生園会議室
議事事項

上記第202回理事会に同じ議事事項であり、審議結果はすべて承認される。

(5) 第203回理事会(監事を含む役員会)

平成24年11月2日(土)午前11時00分より 於：長生園会議室
議事事項

社会福祉法人長生園理事の委嘱について	承認
社会福祉法人長生園監事の委嘱について	承認
社会福祉法人長生園顧問の委嘱について	承認
社会福祉法人長生園評議員の退任について	承認
社会福祉法人長生園評議員の委嘱について	承認
社会福祉法人長生園指名選考委員会規程の制定について	承認
施設長の任免について	承認
第2 デイサービスセンター新築に伴う借入について	承認

(6) 第43回評議員会

平成25年11月2日(土)午前10時00分より 於：長生園会議室
議事事項

上記第203回理事会に同じ議事内容であり、審議結果はすべて承認される。

(7) 第204回理事会(監事を含む役員会)

平成25年12月6日(金)午前11時00分より 於：長生園会議室
議事事項

社会福祉法人長生園理事長の互選について	承認
社会福祉法人長生園理事長の職務代理者の指名について	承認
社会福祉法人長生園常務理事の指名について	承認
社会福祉法人長生園職員就業規則の一部変更(案)について	承認
平成25年度社会福祉法人長生園上半期の事業報告について	承認
定期預金の解約について	承認
平成25年度社会福祉法人長生園全会計第1次補正予算(案)について	承認
社会福祉法人長生園養護特定施設入居者生活介護重要事項説明書の一部変更(案)について	承認
社会福祉法人長生園短期入所者生活介護(ショートステイ)重要事項説明書の一部変更(案)について	承認

(8) 第44回評議員会

平成25年12月6日(金)午前10時00分より 於：長生園会議室
議事事項

上記第204回理事会の議事事項のうち は「社会福祉法人長生園理事長の互選等についての意見具申について」とし、 ・ は議事にはなく、 ~ は同じ議事事項として提案し、審議結果はすべて承認される。

(9) 平成26年 第1回書面理事会

平成26年1月28日(火)

趣旨：下記議案の議決につき、緊急を要するため、書面理事会を開催し、書面をもって議決権の行使をお願いした。なお、第45回評議員会にて評議員に議案の説明を行い、事後了解をいただいた。

議事事項

(仮称)あんしんサポートハウス 光華苑新築工事にかかる入札指名業者の選定について	承認
(仮称)あんしんサポートハウス 光華苑新築工事にかかる入札要項の作成について	承認
利益相反事案にかかる理事長の職務代理者の選任について	承認
(仮称)あんしんサポートハウス 光華苑新築工事にかかる予定価格の設定について	承認

(10) 第205回理事会(監事を含む役員会)

平成25年3月22日(土)午前11時00分より 於長生園会議室

議事事項

社会福祉法人長生園 経理規程の一部変更(案)について	承認
社会福祉法人長生園運営規程の一部変更(案)及び重要事項説明書の一部変更(案)について	承認
第2デイサービスセンター整備にかかる福祉医療機構からの借入額の変更について	承認
平成25年度社会福祉法人長生園全会計第2次収支補正予算(案)について	承認
あんしんサポートハウス光華苑建築にかかる工事請負契約締結について	承認
あんしんサポートハウス光華苑建設用地の売買契約締結について	承認
あんしんサポートハウス光華苑整備にかかる借入について	承認
平成26年度社会福祉法人長生園事業計画(案)について	承認
平成26年度社会福祉法人長生園 全会計収支予算(案)について	承認
定期預金の解約について	承認

(11) 第45回評議員会

平成25年3月22日(土)午前9時30分より 於長生園会議室

議事事項

上記第202回理事会に同じ議事事項であり、審議結果はすべて承認される

2. 施設の運営

(1) 特別養護老人ホーム

特別養護老人ホーム長生園 事業報告

平成25年度も社会福祉法人長生園の基本理念である「和み」「尊厳」「安心」に基づき、法人が運営する各事業所及び関係機関等に対し間口を広げ地域社会より期待される中核施設として事業運営に取り組む。

活動状況

短期入所生活介護事業

介護保険制度の指針で示されている在宅を中心とした介護は、現状の社会環境に於いては、困難となりつつあり、短期入所生活介護事業の重要性と社会的ニーズは非常に高く、今年度も緊急を要する高齢者又家庭崩壊も懸念される高齢者に対し、入院者空床ベッドをフルに活用し遅滞なく受入を行い利用者家族及び関係者からも絶大な評価を得ることができた。

地域福祉の推進

虐待、独居、経済面等々の理由により、保険者からの入所依頼者も年々増加傾向にあり、本園としても、その様な路頭に迷う高齢者の方々に対し微力ではあるが積極的に寄与させていただく事を使命とし、今年度 15 名の緊急入所者の受入れを行い、地域社会の期待に応え地域を支える施設として貢献するとともに健全な運営に努めることができた。

ケアプランによる自分らしい生活の取組み

誰でも願う「自分らしい生活」を第一に考え、利用者・家族の希望要望を十分に聴き取り、ご自宅の生活と利用後の生活が連続したものとなるよう配慮するとともに利用者の生活を一律の時間や日課で区切ることなく、お一人おひとりの心身の状況、生活習慣、個性などを具体的に把握した上でケアプランに反映しその方の個性に合った生活支援を行った。

職員のスキル向上

利用者の生活支援の充実と向上のため、積極的に外部研修に参加するとともに業務多忙の中で研修委員が計画した施設内研修を実施し、個々の職員の専門性・スキルアップを図り介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得に挑戦し、今年度は介護支援専門員 1 名、介護福祉士 8 名の合格者があり、以前から念願であったサービス提供体制加算 の取得を次年度より実施することができるようになった。

会議活動

毎月各階定例会議を通じ、階毎の活動状況や現状の課題等を議題にあげ、利用者へのサービス提供状況の確認及び問題点等を協議・検討し、利用者・家族ともに満足していただける環境作りに努めた。利用者の生活環境に直接影響を与える職員同士の関係作りを見直し、働く者と利用者の生活が互いに温もりと働きやすい職場環境となるよう、会議を通じ再確認し内容の濃い会議を実施することができた。

機能回復訓練の推進

今年度、機能訓練指導員を配置し、心身の維持・予防・増進を図り自立した生活と生甲斐、仲間作り、閉じこもり防止を目的に実施し、1 日 40 名前後の利用者があり好評を頂くとともに安定した個別機能訓練加算収益を得ることができた。

訪問歯科診療の推進

今年度、新たに（訪問歯科診療）田中歯科医院の協力を仰ぎ通院のできない多くの利用者に口腔内の健康管理（誤嚥性肺炎、肺血症等の病気予防）、義歯作成等を通院と同様に施設内で管理治療が提供できるようになり、利用者の負担軽減とともに、家族からも「口臭が気にならなくなった。おいしそうに食べられている。」等好評を得ることができた。

看取り介護

施設での看取り介護は、長年過ごした場所で親しい人々に見守られる中で、自然な形で尊

廠を保ちながら終末を迎えられるよう援助に課題と終わりはなく、今後も更に経験を積み重ね利用者・家族がともに満足していただける看取り介護に取り組んでいきたい。

その他の活動

(感染症対策)

感染症に対する抵抗力が弱い高齢者が、集団で生活する場所であり、年間を通じ感染症が広がりやすい状況の中、また、感染症自体を完全になくすことはできないことを踏まえ、有事の際感染症の拡大を最小限に抑えられるように、職員全員が統一した迅速な対応を行い医務室を中心とした感染症対策委員会を設置し、随時会議を通じ長生園独自の感染症対応マニュアルの完成に向け取り組む。

(ご利用者満足度調査)

日頃からご家族が施設に対しどのような観点で評価をしているか、年2回(前期・後期)ご利用者満足度調査を実施した。殆どのご家族からは「満足している」との回答を頂くことができたが、中には貴重なご意見も多くあり、今後更に利用者・家族がともに満足していただける施設を目指して取り組んでいきたい。

(レクリエーション活動)

従来は、各階レクリエーション委員が中心に内容を検討、工夫し利用者の生活に潤い・楽しみ・生甲斐に繋げるよう取り組む中で、今年度は特養部合同レクリエーションを開催し、普段と違う雰囲気と顔ぶれにより、普段見られない笑顔と意外性が見られ利用者、担当職員からも「良かった」との声も多くあり、今後も継続して行きたい。

(2) 養護老人ホーム・養護特定施設入居者生活介護(外部サービス利用型)

・利用状況

入所状況(内訳)

措置機関	人数	入所理由	措置機関	人数	入所理由
京都市右京福祉事務所	1名	介護困難	京都市東山福祉事務所	2名	独居
京都市山科福祉事務所	2名	独居	京都市伏見深草福祉事務所	1名	虐待
京都市左京福祉事務所	1名	介護困難			

退所状況(内訳)

特別養護老人ホーム長生園入所	死亡	計
6名	1名	7名

入院状況(内訳)

延入院者数	延入院日数
25名	615日

・事業実施状況

< 施設事業 >

各措置機関から独居生活者や介護困難、また高齢者虐待の入所依頼があり、各措置機関、関係事業所と連携を図り積極的な受入れができた。

身体機能が低下し介護が必要となった入所者に対し、常時介護サービス提供可能な特別養護老人ホーム長生園の協力を得て、随時受入れをして頂いた事で円滑な退所が出来た。

これにより、新規入所者の対応が早期可能となり、各措置機関の依頼に答えることができ、さらなる信頼関係が構築できた。

夜間勤務に宿直者を配置したことで、定時の巡回以外に要注意者への声掛け・状態観察が行えるようになり、より一層、入所者の安全・安心の確保、夜勤職員の介護負担軽減など夜間強化が図れた。

特養と同様に訪問歯科診療を締結し、外来通院に負担のかかる入所者が安易に施設内で歯科診療が受けられる体制が整った。口腔ケアの重要性を理解、食後の口腔ケアが習慣となった。

要介護状態の入所者に、必要に応じた介護サービスの提供が受けられるよう、各事業所と連携・調整を行い、養護特定施設入居者生活介護（外部サービス利用型）の利用者数の確保ができた。

< 入所者処遇 >

サービス担当者会議を定期的で開催しており、入所者個人の有する能力、身体状況、ニーズや問題点を把握し、個人に合った日常生活習慣の支援ができた。

町内にある子供将棋クラブが新たに加わり、地域との交流の場が増えた。また余暇活動の一環であるサークル活動に塗り絵や読書を増やし、活動内容を自ら選択することで参加意欲の向上につながった。

入所者より外出や買い物がしたいと日頃から希望が多くあり、個別対応で町内外出、小グループ対応で喫茶店を利用、全体として町外での買い物を実施した。入所者から「楽しかった」、「今後も行きたい」など好評で、入所者の意向に沿った計画・実施により行事内容の工夫ができた。

< 職員の取組み >

感染症対策について出勤・退勤時のうがい・手洗いを励行。施設内共有スペースのトイレや手すり、食堂など消毒を毎日実施。また入所者にも食事前の手洗い・うがいを勧め、習慣となった。職員・入所者ともに感染予防に対する意識向上と取組みができた。

本年度は台風による被害があり、火災・地震あらゆる災害に対する防災意識を高めるため、法人の総合防災訓練は積極的に参加。消防計画に基づき防災自主点検をはじめとする入所者の安全確保を目的に日頃から施設整備に努力した。

(3) ケアハウス長生園

・ 利用状況

平成 25 年度入居率 91.2%

(25 年度入居者 7 名：内訳 = 南丹市 2 名、京丹波町 1 名、京都市 4 名)

(25 年度退居者 9 名：内訳 = 特養 3 名、グループホーム 3 名、自宅 2 名、死亡退居 1 名)

・ 事業実施状況

[満室にむけての取組み]

ケアハウス利用者の高齢重度化は年々深刻な状況にある中で、長生園が高齢者総合施設として機能し、併設事業及び協力医療機関の連携により将来まで安心したサポート体制が確立しているという利点から、入居年齢層も高くなり要介護状態による退居に至る利用者

が増え、今年度においては入居率が昨年を下回る状況となった。引き続き各サービス事業所及び行政への呼びかけを行い満室に向けて取り組んでいきたい。

〔利用者の日常生活に対する取り組み〕

利用者からの要望あり、1月より新しくコーヒーサークルを発足、話の輪が広がり楽しい集いの場として活動し始めた。

地域交流の場となる「お知らせなんたん」掲載の健康生きがい講座に参加した。他事業所からの「お知らせ」も掲示し、日常生活に役立つ情報の収集ができた。

- 年間計画に基づいて、4月＝篠山「黒豆の里」・お花見ドライブ、7月＝トロッコ列車と嵐山昼食の旅・かっぱ寿司、10月＝京都大枝の柿狩り、11月＝かっぱ寿司と充実した内容で実施ができた。
- 感染症予防のうがい・手洗いの呼びかけをおこない、利用者・職員ともに徹底した対応ができたが、居室の衛生管理・設備の保守点検については、実施記録が不十分であり反省が残る結果となった。

〔職員の取り組みについて〕

- サービス担当者会議においては、書式の見直しにより充実した内容で立案・実施できたが、見直しが不十分であった。
- 各委員活動においては、年間行事計画に基づき実施する事ができた。
- 職員の知識向上にむけて、施設内外の研修にも出来る限り参加ができた。

（４）グループホーム幸せの里

・ 利用状況 グループホーム 幸せの里 定員 18 名

入退居者：退居者＝3名（内、女性3名）入居者＝12名（内、男性2名、女性10名）

・ 事業実施状況

平成 24 年度より進めてきた 2 ユニット化の施設整備が完了し、本格的に稼働した 25 年度であるが、1 年をかけて少しずつではあったが、2 ユニットに応じた環境整備や職員体制を整える事が出来た。

経営面について、利用料の実費相当分において増改築による家賃の見直し、現状に応じた光熱水費の再設定を行った。又、利用者の快適な生活を阻害しないように工夫をこらし節電・節水に努めた。

平成 24 年度に受審した外部評価を基に作成した目標達成計画との連動を図り、以下のような評価を行った。

- 1) ホーム独自の理念～本年度の重点目標として、グループホーム本来の果たす役割の原点に返り「(利用者職員が)家庭的な雰囲気の中で共に支える生活」というフレーズを掲げたが、認知症状の程度や ADL によって、出来る人もいれば出来ない人もいる中で、可能な範囲で対応する事が出来た。
- 2) 利用者家族の運営推進委員会への参画促進については、委員会の告知や啓発が不十分であり、出来たとは言いがたい部分はあるが、徐々に浸透させるように年度を越えた長期的目標として計画していく。
- 3) 利用者毎の担当制の導入の継続については、24 年度からの継続目標であったが、2 ユ

ユニット化を図るにあたり、実施可能な方法を模索しながらの実施ではあったが、新たな課題と向き合いつつも担当制そのものにおいては定着した。

- 4) 「利用者が新しい環境で自分らしく暮らせる環境整備に努める。」について、増改築により旧ユニットから新ユニットに以前からの利用者が移動し、又、5月より新たな利用者の入居が始まり、10月には満床になった。職員においても不慣れな環境の中での対応ではあったが、利用者におかれては徐々に慣れ現在では落ち着いている状況にある。
- 5) 地域との繋がりとして、「慰問やボランティアの受け入れ」、「地域に出向き様々なイベントの参加」、「近隣の施設との交流」と、3つの具体的目標を掲げたが、以外は、概ね実施できた。

(5) デイサービスセンター長生園

・重点課題の実施状況

- 1) 家庭介護を支えるチームの一員としてのデイサービス
独居の利用者を離れて住む家族が支えるケースなど、ケアマネや家族、および関係機関と協力して支援する事ができた。
家族参観を年度中に2度実施した。今年度も初めて参観して下さった家族がデイサービスの内容を知っていただくとともに、初めての家庭介護に不安を抱えていた家族にとって、ベテラン家族の助言を聞くよい機会とすることができた。
連絡帳は家族に充分情報が伝わるよう、丁寧な表記をした。
- 2) 地域との交流活性化・生活意識の向上
お花見や紅葉狩りなどで地域へ外出する事ができた。広報誌を関係機関に配布し、地域や関連機関の情報提供に努めた。
生活リハビリの一環として、お金を持って外出し買い物や喫茶店での飲食を実施し、利用者の生活意識を向上することができた。
- 3) サービスの質やサービス提供体制を担保する取り組み
毎月の業務会議の中で事故、感染症、OJT、拘束などについて委員を中心に検証した。定期的なカンファレンスにおいて介護職と看護職が個別通所介護計画を作成する事が定着している。
利用者(家族)満足度調査を実施し、概ねよい評価を得ている。
新採用、新配属の職員については個別指導を行いデイサービス職員としての技術向上が認められている。
なんたん通所サービス部会、ケア会議など外部研修及び内部研修にも積極的に参加し職員のスキルアップができた。
- 4) 第2 デイサービスセンター事業開設への準備
埴生地区において建設を進めていた第2 デイサービスセンターは、施設は平成26年3月14日に完成・引き渡しを受け、各種職員定数を確保することができた。

(6) ヘルパーステーション長生園

・事業実施状況

施設内外の研修会に参加し、他事業所との情報交換等を行い、様々なケースの対応方法等の理解を深め介護力の向上に努めた。

ヘルパー間の連絡を密にし、利用者の心身の状態を常に把握し、利用者にとってより良いサービスが提供できるようミーティングを頻繁に行った。

利用者家族等の来園時、利用者の状況や問題等情報提供し、家族の質問や相談に応じるよう努めた。また、会えないときは連絡帳で日頃の様子を伝えた。

ケアマネジャー・ケアハウス・ヘルパーステーションの連携を図りながら、サービス内容や今後の介護方針等について協議し、利用者の生活改善に役立てた。

将来を見据えサービス提供体制の検討を行った。

(7) 社会福祉法人長生園診療所

・事業実施状況

本法人診療所は、「特別養護老人ホーム医務室」を含め医療面から利用者を支え、又、職員の健康管理にも大きく貢献してきた。また、協力医療機関である公立南丹病院やもみじヶ丘病院からの支援を得て、医院直接診療である訪問歯科診療を除き、25年度も医師（内科2名・整形外科3名・皮膚科1名・精神科2名）の派遣が確保できた。昨今の医師の確保が困難な状況にもかかわらず、利用者に安心いただける良質な医療の提供体制を維持することができた。

感染症に対する研修や予防活動に努め、インフルエンザ予防接種・肺炎球菌の予防接種の取組みを継続し、うがいや手洗い・マスク着用励行・消毒剤の使用も進め、影響を最小限に抑えることができた。

職員のメンタルヘルスのため、今年度も職場内研修会を実施するとともに職員面接を実施した。

緊急時に備え全職員受講を目標に普通救命講習を積極的に実施した。

台風18号被災医療器具の補充を行い、老朽機器類の更新も進めた。

看護業務体制の確保のため積極的に看護師の募集を行ってきた。(パート職3名採用)

(8) 長生園居宅介護支援事業所

平成25年度 長生園居宅介護支援事業所 事業報告(案)

・事業計画の実施状況

(1) 居宅サービス計画の作成状況について

相談者宅を訪問し利用者と家族のニーズを把握すると共に、サービス担当者会議を適宜開催し、各事業所や関係機関とも同意を得て計画内容を決定した。

(2) 居宅サービス計画に基づくサービスの実施状況について

サービスの実施後、再検討が必要な場合は再課題分析会議を行い、サービスの内容変更を実施した。

(3) 利用者からの相談・苦情に関して

特に苦情と定義づけられる事例はなかったが、提供した支援計画に受けた相談に対して、また計画以前の問合せなどに対しても他の居宅支援事業所や行政などに調整を図り、訪問するなど適切に対処した。

(4) 認定調査及び介護予防支援業務

行政及び包括支援センターの委託等について、積極的に協力した。

(5) 多種多様なニーズに応えるための、充実したケアマネジメント

内外の研修会等へ積極的に参加し資質の向上を図り、また南丹市地域ケア会議に出席し、地域のニーズおよびサービス提供事業所等、関係機関の状況を把握し、連携を取ることができた。

25年度中にケアマネージャー1名の増員があり、相談に対応する余力ができた。

(9) 給食関係

平成25年度の事業報告として、より良い食事提供を図る中で利用者の嗜好を把握するため、嗜好調査を行った。今年度は給食委託会社である犬石商店協力のもと、利用者と調理スタッフが直接話し合う機会を設け、より利用者の思いが把握できた。その思いを次年度に活かせるよう、献立の見直し、手作りおやつの実施を図っていく。ケアハウスでは、嗜好調査に合わせて懇談会を設けより思いが伝わるよう対応する。

設備環境についても、冷温配膳車の年次計画に基づき、2年目として4台の冷温配膳車の入れ替えを行った。機能的にも充実しより安全に食事の提供が行えた。次年度においても4台の配膳車の入れ替えを予定しており、今後も充実した食事内容を提供する。また、平成25年度京都府指導監査において、給食棟の施設環境等（食数1日1000食以上にしては手狭ではないか等）の指摘を受け、根本的な作業導線から検討を行った。その結果、一部改修を行いより安全に作業が遂行できる環境作りが必要であると考え、設計会社や調理スタッフ、営繕職員、施設管理栄養士にて相談を重ね、改修計画を詳細に作成した。次年度はこれに基づき改修を進める。

3 . 平成 25 年度主要行事

月	行 事
4	1日辞令交付式、9～18日花見&ドライブ、14日子ども将棋交流会、20日グループホーム増改築工事完了・24～26日ニチイ学館ヘルパー実習、26日南丹看護専門学校実習始まる(通年)
5	8日花まつり、11日ご利用者レントゲン検診、13日聖カタリナ高生実習はじまる(通年)、14～16日ニチイ学館ヘルパー実習、18日理事会・評議員会、24日普通救命講習、28日消火器訓練・農芸高校フラワーキャラバン、30日カラオケサークル道交流訪問
6	5日第2デイサービスセンター造成工事入札、6日南丹市福祉避難所協定調印式、12日第2デイサービスセンター造成工事起工式、18日普通救命講習、20日聖カタリナ幼稚園慰問、21日水無月祭、26日銭太鼓・丹波音頭慰問
7	1日～5日南丹病院研修医実習、7日七夕祭、14日子ども将棋交流会、16～19・22～26日南丹病院研修医実習、26日普通救命講習、26～8月8日龍谷大学生実習
8	2・10日南丹市福祉体験教室、12・24日職員健康検診、20日納涼夏祭り、26日お盆法要、30日ミュージックパーク慰問、31日栃ノ喜グループ交流訪問
9	5日第2デイサービスセンター建築工事入札、14日敬老祝賀会、16～18日台風18号による被災および復旧作業、27日普通救命講習、28日高屋笑山社中民謡尺八慰問、30日第2デイサービスセンター建築工事起工式
10	3・4・7日福祉体験人材育成受入・9日京都府・南丹市指導監査及び実地指導、16日お彼岸法要、21日～25日府立医大研修医たすきがけ研修、22日長生園運動会、29日事業所消防訓練大会(優勝・入賞)、31日京都府社会福祉大会(3名受彰)
11	2日理事会・評議員会、上旬インフルエンザ予防接種、12日ケアハウス避難訓練、13・14・15日園部中学校勤労体験学習、15日創立記念日行事、20日ワークライフバランス講演会、26日グループホーム第3者評価、26日農芸高校フラワーキャラバン
12	6日理事会・評議員会、24日クリスマス忘年会、27日年末大掃除&餅つき大会
1	1日新年祝賀会、15日とんど、20日普通救命講習、24日光華苑入札指名選考委員会、28日平成26年第1回書面理事会、31日農芸高校フラワー慰問
2	3日節分祭、4日市議会議員選挙不在者投票、15・18日職員健康検診
3	3日ひな祭、3日光華苑入札会、9日子ども将棋交流会、14日第2デイサービスセンター建物引渡し、19日秋彼岸法要、22日理事会・評議員会、26日総合避難訓練

4 . 平成 24 年度 施設内外職員研修報告

月	研 修 行 事 等
4	介護認定調査員研修、ケアマネ連絡会、ホームヘルパー事業所連絡会、医療保健福祉ネットワーク会議
5	社会福祉主事講習、地域ケアマネ研修、普通救命講習、ホームヘルパー協会研修、認知症介護実践者研修
6	認知症介護実践者研修、普通救命講習・南丹リハビリ事例検討会、たん吸引フォローアップ

	研修、社会福祉施設長研修、南丹通所サービス部会、ケアマネ連絡会、医療保健福祉ネットワーク会議、介護支援専門員更新研修
7	新入職員研修、介護支援専門員更新研修、普通救命講習、認知症介護実践者研修、高所作業者講習
8	医療保健福祉ネットワーク会議、介護支援専門員更新研修、玉掛技能講習、認知症介護実践者研修
9	ホームヘルパー連絡協議会研修、南丹栄養士連絡協特定給食施設従事者講習、介護支援専門員更新研修、普通救命講習、介護支援専門員模擬試験、自衛消防隊指導者研修、介護福祉士実習指導者講習会・ケアマネ模擬試験、
10	認知症介護実践者研修、南丹リハビリ支援研修、障害者就労支援研修、介護福祉士実習指導者講習会、南丹ケアマネ事例検討会、感染症予防施設内研修、小型移動クレーン運転技能講習
11	ホームヘルパー研修会、保健年金研修、介護福祉士模擬試験、看取り介護研修、南丹在宅医療地域連携研修
12	介護福祉士模擬試験・特定給食施設従事者講習、介護認定調査員研修、南丹ケアマネ事例検討会、医療保健福祉ネットワーク会議、感染症予防リーダー研修
1	新春経済講演会、ケアマネ研修、普通救命講習、介護認定調査員研修、普通救命講習
2	介護支援専門員実務研修・危険物安全管理者講習会、医療保健福祉ネットワーク会議、介護福祉士実技試験対策講習
3	介護支援専門員実務研修、南丹通所サービス部会、介護福祉士実技試験対策講習、南丹栄養士連絡協